

NPOワンポイントアドバイス!!

～情報開示4つのポイント～

団体の信頼を得るために、的確な情報開示が必要です。
単なる情報を伝えるだけではなく、団体への支援を集められるようになるための
情報開示のポイントをお伝えします。

1. 基本情報は「基本情報シート」にまとめておく

就職活動の時に記入する履歴書のように、「この団体がいつ、どのように生まれ、何を目的に、これまでどのような事業を行ってきてどんな成果をあげたのか」や、「会員数や財政の規模、役員や職員の内容、組織図」など団体の基本情報は、いつでも正しく伝えられるようまとめておきましょう。

2. 「これからやること」を開示し、必要な支援を集める

団体が具体的に何を実現しようとしているのか、そのためにはどのような資源（人材、資金、施設、備品など）を必要としているのか、を開示すると寄付金などが集まりやすくなります。

3. 開示したいことではなく、開示が望まれていることに答える

多くの助成機関がたずねている項目や、団体にとってネガティブな情報も積極的に開示することにより、信頼感が増し真摯な姿勢が評価されていきます。

4. 数値化できることは、可能な限り数字で示す

数値化できることは可能な限り数字で示すことで、客観的に分かりやすく伝えることができるようになります。一方、収支計画や決算書など数字ばかりが並ぶものには、文字で説明を加えるようにすると理解してもらいやすくなります。

参考:『NPOマネジメント 47号』IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 発行



センター長のつぶやき

まちづくりセンター センター長 丸藤 競

8月中旬から四つの台風が北海道に上陸、近づいたことで、道内各地で大きな被害が出てしました。農家や漁師、林業などに携わっている皆さんはもちろん、様々な人に大きな影響を及ぼし、畑や道路、鉄道などか完全に元に戻るためにはかなりの長い年数がかかるかもしれません。

一方で、こうした災害が起こった後、全国から多くのボランティアが駆けつけ支援をする姿には、毎回、頭が下がります。

支援の仕方も、ボランティアセンターの開設から受け入れ運営と、効率的・効果的なものになっています。どんな災害にあっても、すぐに多くの市民の気持ちと力が集結できることは、私たちの誇りと言っていいと思います。

そのボランティアですが、被災地で活動していく場合いくつかの心得が必要になります。1.自分のことは自分で守る。2.被災者の立場に立った活動をする。3.自分で考えて行動する。4.集団行動のルールを守る。5.断る勇気を持つ。6.思い込みをなくす。7.地域住民の自立を支援する。（函館市社会福祉協議会『函館市災害ボランティアセンター運営マニュアル』より）

災害は、いつ私たち自身に関係してくるかわかりません。その時のため、ぜひ頭の片隅にでも入れておいていただければと思います。